

# 行田 歴史系譜 281

歴史を語るこの「いっぴん」  
博物館の収蔵庫から

17

## 松平信綱書状

行田市郷土博物館所蔵

江戸幕府の老中に就任した大名の人数は120人を超えますが、その中には「切れ者」と評価されている人物がいます。今回紹介する書状を書いた松平伊豆守信綱もその一人で、溢れ出る才智から「智恵伊豆」の異名を持っています。

信綱は慶長元年（1596）に大河内久綱の長男として生まれ、6歳のとき叔父の松平正綱の養子となりました。9歳のとき生まれただばかりの徳川家光の小姓となり、家光が3代將軍になると、將軍親衛隊の隊長である御小姓組番頭に就任しました。徳川秀忠が死去して家光が名実ともに幕府の実権を握ると出世街道を歩み、寛永10年（1633）には老中となり三万石を与えられて忍藩主となりました。同15年に天草・島原の乱を鎮圧し、翌年に6万石に加増されて、川越藩主となりました。

この書状は信綱から美濃国加納藩主大久保忠職に宛てたものです。日付は12月27日で年号の記載



松平信綱書状

次を書かれた年を推測してみます。信綱が忍藩主だった寛永10年から15年までの12月の行動を調べると、12年は駿府、13年は日光、14年は九州の島原と公務で各地に出張しており、忍城へ向かう時間は無かったと思われます。10年は家光の弟の徳川忠長が切腹する大事件があったため、江戸に居たと思われる、江戸に滞在しています。これらのことからこの書状の年代は寛永11年と考えられ、忍藩主時代の信綱の動向を知る貴重な資料となっています。  
(郷土博物館 鈴木紀三雄)

はありません。内容は久保から歳暮として小袖一重などをもらったことへのお礼を述べた後、もっと早くお礼を言うべきでしたが、忍へ出掛けていて昨日帰宅したため、礼状を出すのが遅れましたと書かれています。老中は政務のため任中は江戸に滞在しており、居城に戻ることはほとんどありません。信綱もその例外ではありませんが、この書状から忍藩主時代に忍城を訪れていたことが分かります。

## 特定非営利活動法人 ぎょうだ市民'Sネット

行田を中心に活動しているNPO法人などの市民活動団体や、市民活動を始めようとする人を支援しているのが特定非営利活動法人ぎょうだ市民'Sネットです。市民活動が活発になり、市民が主役のまちづくりが進むことを目指しています。

同法人は平成28年1月に発足し、現在会員は11人。団体や個人からの運営や活動に関する相談をいつでも受け、団体間の橋渡しとなれるよう、毎月ミーティングを開いている他、他のNPO法人の活動情報などの収集と共有、専門知識の向上に努めています。

代表理事の松井秀二郎さんは「市民と行政が協働することは、市の予算削減につながります。また、公共サービス維持のため、その必要性は今後より一層高まります。それぞれの活動団体が経験を積み、行政からも頼られる団体となるよう支援していきたいです」と活動への意気込みを語ってくれました。

市民と行政がともに手を取り合い、魅力あるまちづくりに取り組んでいくため、同法人の活躍が期待されます。

【代表理事】松井 秀二郎 【電話番号】556-3593

## つながる ひろがる みんなのチカラ

～市民公益活動団体紹介～⑧



毎月行われているミーティングの様子

### 今月の表紙

池井戸潤さんの小説「陸王」(集英社刊)が、10月からTBSテレビ日曜劇場でドラマ化されます。これを記念して「陸王」の書影や主演の役所広司さんの似顔絵を描いた田んぼアートが制作されました。古代蓮の里南側の田んぼに新設されたキャンパスに浮かび上がる過去最高の緻密さの田んぼアートは、古代蓮会館展望室から見ることが出来ます。

- 市報ぎょうだに掲載されているあなたの写真を差し上げます。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)まで。
- 市民の皆さんの市政に対するご意見をお待ちしています。
- 市報をダイジ版に録音したものを希望者宅にお届けします。ご希望の方は、広報広聴課広報広聴担当(内線318)までご連絡ください。



市報ぎょうだは再生紙を使用しています